

昭和60年10月13日

美術館特集号

市報

にいがた

市の人口

前月比
人口 466,617(+ 372)
男 227,578(+ 211)
女 239,039(+ 161)
世帯数 152,305(+ 122)
60年8月末現在

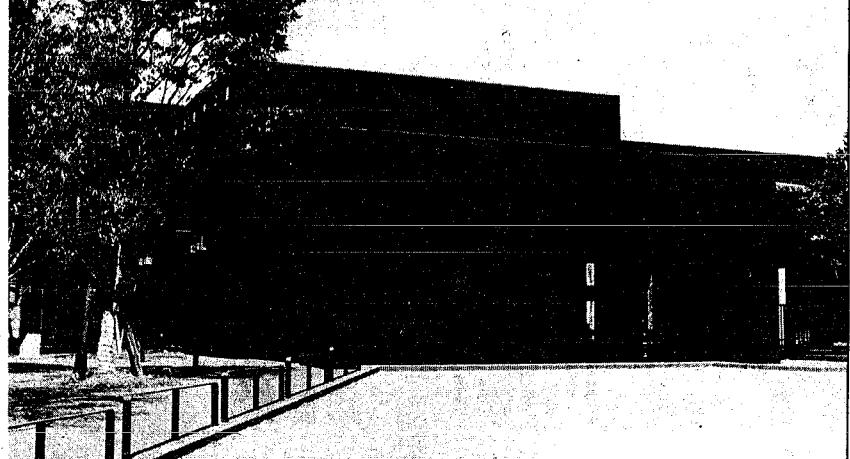
毎週日曜日
発行所 新潟市役所
新潟市西堀通6番町
866
電話 (28)1000
編集企画部広報課
印刷所 印刷第一印刷所



「ウェイティング・フィギュア(波の形)」
建畠覚造 (1919年~)

開館を記念し、正面入口わきの前庭に、日本海や信濃川、阿賀野川の波をテーマにしたモニュメントを設置しました。作者は現代日本を代表する彫刻家・建畠覚造氏。モニュメントは、波状の形が十字に交叉しながら地に根差し、たくましく天に向って上昇し、無限空間への展開を意味しています。また、ステンレス製の曲面が、空や隣接する西大畠公園など、周囲の情景や色合いなどを映し出します。(上の写真は模型、作品は今日一般公開)

市美術館今日オープン



市美術館の正面入口(写真上)と西大畠公園(写真下)



西大畠公園も新潟情緒「烟と柳」を再現し、広場や遊びの広場、東屋などが設けられています。新緑や紅葉の中で、煙と柳、オリーブグリーンの美術館——とハーモニーの繋ねにも事欠きません。

豊かな心と造る喜びを…



岩村元喜
岩村元喜

豊かな心を育て、暮らしの中に創造する喜びを育むことのできるまち造りは私たち新潟市の一つの目標です。

私は、その目標に向って、一つ一つの努力を積み重ねていかなければなりません。

今その一つの努力が実ったわけです。

これからは、美術についての関心が高まり、美術館を中心舞台に市民の皆さんのが美術活動や美術鑑賞を通して、心の豊かさを増してくれるものと信じています。

美術館は、新潟市の文化的貢献を担つて、その第

一步を踏み出したところです。
どうか、私たち新潟市の大切な財産として親しみ、愛し、立派な美術館に育んでもらうことを心から願っています。

豊かな心を育て、暮らしの中に創造する喜びを育むことのできるまち造りは私たち新潟市の一つの目標です。

私は、その目標に向って、一つ一つの努力を積み重ねていかなければなりません。

今その一つの努力が実ったわけです。

これからは、美術についての関心が高まり、美術館を中心舞台に市民の皆さんのが美術活動や美術鑑賞を通して、心の豊かさを増してくれるものと信じています。

芸術の香り高い季節を迎え、新潟市美術館が、よう開館します。この日を待ちにしていただけに、このうえない喜びであり、市民の皆さんと共に喜びをかみしめたいと思います。

「新潟市には文化的な資産が少ない」十年ほど前には、よく言っていたことです。それは港まち、庶民のまちとして栄えてきた歴史的な事情もあつたわけですが、いつまでも、それに甘んじているわけにはいかない、「文化」のまち作りを真剣に進めなければ」と市では五十二年に音楽文化会館を完成させ、続いて、県都にふさわしい美術館建設へと構想を進めました。これに呼応して高まつた強い要望と相まって美術館構想はいきおい建設への動きとなり、昭和五十八年七月に着工しました。以来一年三ヶ月の歳月を経て、「見る・つくる・語る」の三つの機能を十分發揮できる「開かれた」美術館の誕生をみるに至りました。

開館時の収蔵作品は三百九十七点、国内・国外の著名な作品もたくさんあります。中でも、フランス近代絵画の巨匠ボナールの「浴室の裸婦」は広く注目されており、新潟市美術館の名を高めるものと信じております。